

寄稿：東部海浜開発事業の果実をもとめて

比屋根清一氏（当協議会顧問、前当協議会会長）より寄稿頂きましたので、今回本誌においてご紹介いたします。

東部海浜開発事業の果実をもとめて

沖縄市の未来に目を向けて

多くの難題を克服しながら沖縄市の東部海浜開発事業（以下、泡瀬出島と呼ぶ）の第1区域工事も新聞報道によれば、県の【橋梁工事、突堤・中仕切り工事】と国の【護岸、浚渫工事】は2016年度に完成のようである。この泡瀬出島開発構想から実施までには、かなりの紆余曲折を辿りながらやっと峠を越えるところまでこぎつけた。

ところで、この泡瀬出島事業はコザ市と美里村の合併時の命題であり、両市村の当事者の間には東部海浜構想が芽生えていたのではないだろうか。それは嘉手納飛行場、嘉手納弾薬庫地区の弊害でコザ市の地域環境は著しく損なわれている。例えば、中心市街地は北東に位置する嘉手納基地に遮られ観光国際都市のインフラストラクチャーの弊害、さらに沖縄のリゾート観光の魅力である海辺に面していないこと、まさに八方塞がりなトンネルの中をさまよっている状態である。その悪条件を克服する手立ては合併によって新たな都市構想の中に泡瀬埋め立て構想が沖縄市の戦略成長の目玉事業として位置づけられていたのではないか、しかしこの事業が計画から実施までに、これほど長期間にわたるとは思っていなかったのではないだろうか。いずれにしろ第1区埋め立ては3年後（2016年度）で完了する。それに合わせて市の土地利用計画の策定も遅滞なく進んでいる事と思う。さらに土地供給計画も順調に進んでいると思う。

東部海浜開発計画イメージ図



【スポーツコンベンション拠点の形成】

紆余曲折を経ながら平成22年7月に新たに策定された～国際観光都市を目指して～をテーマに、その重点目標には「スポーツコンベンション拠点の形成」を明示している。開発コンセプトは、

- ①最も優位な集客資源であるスポーツや文化芸能を最大限活用
- ②スポーツを中心とした事業として宿泊、海洋レジャーなどを展開
- ③県民・市民や、観光客、スポーツ競技者へ開放
- ④新たな就業の場、健康づくり、未病対策の場の創出

を掲げている。改めて言うまでもなく、市はこの施策について精力的に取り組み且つ順調に進めている。

沖縄市は県内の他の地域に比べて観光資源に乏しく、観光市場が脆弱であるのは否めない極めて厳しい状況と言わざるをえない。それ故に『泡瀬出島』開発構想は市内の既成商店街の弱体化によって、危機的状況のコザ中心市街地活性化が大義名分である。更には、コザ地域再開発の足がかりにする都市形成の命綱の役割も担っている。したがって国際観光戦略の手段としてマスタープランにスポーツコンベンション構想はまさに時宜を得た企画でありこれからの取り組みは、具体的且つ大胆に、そして用意周到にメリハリをつけた活動が期待される。

スポーツ特区を目指す

昨今の県内スポーツ界の動向に目を向けると FC 琉球J3参加やサッカースタジアム建設構想、県総合運動公園の陸上競技場にJ2規格のスタジアムの建設とさらに公園内に練習場も合わせて設置するとマスコミを通して報道されている。沖縄市にとって県の構想はまたとない絶好のチャンスであり、市のスポーツコンベンション・プロジェクトを県当局や県体協との緊密な連携を保ち、国への対策も敏速に行動しなければならない。その理由は、安倍政権の成長戦略に「アジア市場に最も接近する沖縄に国際戦略として特区の活用云々」の方針が盛り込まれている。沖縄市にとっては国と県の共同事業である泡瀬出島拠点のスポーツコンベンションに【スポーツ特区】は千載一遇のチャンスでありこの機会を逃してはならない。



さらに付け加えるならば、日米声明の米軍基地の負担軽減計画の反動は嘉手納基地の強化に繋がり周辺地域の基地被害の増幅を招きその影響は計り知れない。沖縄市の基地被害の実態を日本政府は眼を逸らすことはできない。従って県の協力を得て理詰めで要請すべきではないだろうか。【スポーツ特区】は沖縄市全体のインフラにも重要な影響をあたえる。

人の集まる泡瀬出島の街形成のインフラは

- (一) 本島と出島を結ぶ橋にも沖縄の風土、文化を活かした構造の橋梁デザインにする
- (二) 海上、陸上のスポーツレジャー施設にテーマパーク的なエンターテイメントの施設の導入
- (三) 出島全域の美化につとめ、無電柱化や市特有の憩いの公園設置、東海岸地域の文化や歴史を活かした景観の創出
- (四) 平穏な東海岸から朝日を眺める環境は特に高齢者の保養地(エリアー)に最適
- (五) ウォーターフロント開発により東海岸の魅力を引き出す
- (六) 映画、テレビドラマロケ撮影誘致の促進にファッションブルな沖縄らしい景観の造成
- (七) 全長900メートルの泡瀬ビーチにマリン関連施設の建設
- (八) 既存の市運動公園と県運動公園との連携により広域プロジェクト構想



さて、以上の観光開発の特質を最大に活かすことによって、土地の利用価値が証明されて、県内外のホテル業界、観光業界の注目を集めることは間違いない。したがって事前の対策には前述の観光関係業界に対する次の具体的な誘致活動の展開である。

主な誘致対象企業は

- (I) スポーツレクリエーション施設・レジャー施設の設置と経営に携わる企業誘致
- (II) アミューズメント施設の設置と経営に携わる企業誘致
- (III) 保養を兼ねたシニアタウン計画と運営に関わる企業誘致
- (IV) マリンレジャーの企画と運営に関わる企業誘致
- (V) リゾートホテル企業、都市ホテル企業誘致



東部海浜開発事業の究極の目標は

スポーツコンベンション拠点の形成の課題の解決は、多岐のスポーツを通して施設の強化と県唯一のスポーツエリアの設置。それによって集客力を図り、ツアー観光受け入れの強化、県内最長のビーチの活用にトライアスロンの企画を他に先駆けてすすめる。アスリートとサポーターの交流をすすめるスポーツ滞在人口を増やす。マリンスポーツレジャーの観光市場を広げ、年間を通しての集客効果を高める。

結びに、沖縄市は観光産業では他の市町村に比べ相当の遅れをきたしたと思う。よって、行政、議会、東部海浜開発推進協議会に市内のすべての市民組織も団結して、市の振興計画の進行と経済発展を目指して、次世代の市民のため沖縄市の未来を賭け、不退転の決意で『泡瀬出島』の街づくりの成功を期して行動することが今日の大きな課題である。

沖縄市東部海浜開発推進協議会

顧問 比屋根 清一

比屋根顧問奇稿ありがとうございました。事務局では、皆様の東部海浜開発事業に関するご意見をお待ちしております。

— 私たちは、「東部海浜開発計画」を推進します!! —

沖縄商工会議所・沖縄市観光協会・沖縄市民憲章推進協議会・沖縄青年会議所・沖縄市婦人連合会
沖縄市自治会長協議会・沖縄市建設業者会・沖縄市社会福祉協議会・沖縄市料理飲食業組合
沖縄市観光ホテル旅館事業協同組合・沖縄市漁業協同組合・沖縄市農業委員会・沖縄県農業協同組合コザ支店
沖縄県農業協同組合美里支店・沖縄市青少年育成市民会議・沖縄市老人クラブ連合会・沖縄市PTA連合会
沖縄市校務研究会・沖縄市文化協会・沖縄市体育協会・沖縄中部個人タクシー事業協同組合・沖縄市管工事協同組合
沖縄市電業会・沖縄県建築士会沖縄支部・コザライオンズクラブ・コザロータリークラブ・泡瀬復興期成会
沖縄市土木コンサル会・沖縄市緑化会・コザ商店街連合会・沖縄市建築士事務所会・沖縄市役所・沖縄市議会

